

淳之介の憂うつ闘病記



淳之介社長 5歳♂

極めて神経質な上に、気難し屋。
そんな社長の気まま日記です。
筆者は同居人なので、多少の誤解・行き違いがあるかもしれませんが。
それでも、この世の猫族の参考になる一編ならばと思うのです。

膀胱炎の巻

来客は極力お断り

社長としての責務をマットウしていないと言うのなら、言わせておけばいい。
とにかく人間がやってくるのは最悪。隠れるが勝ちなのである。
ある日、いつものようにタンスの上で来客の退散を待っていたが、どうやら帰りそうも無い客だった。今さら降りていくのもプライドが許さないし、ここは面目を立てるしかない。ジーンと我慢で客の帰るのを、ひたすら待ち続ける。

真っ赤なオシッコ

客が帰り、再び静けさの戻った家で、「さてと…」とおもむろにトイレに行く。
客の居た間、我慢したからなあ～。
トイレに入って、気持ちよく排出の予定だった。ところが！！
痛みを伴うばかりで、気持ちよくオシッコが出ない！ やっと出たオシッコは、赤に近いピンク色をしている。

ホッと一息

ひどくなる前に同居人間が病院に駆け込んだお陰で、少しの薬で完治するらしい。
しばらく、排尿時の痛みと不快感は、仕方ない！！

尿道結石の巻

オシッコが出ない！

前兆があったはずなのに、我が家の同居人間は気付いてくれなかった。
とりあえずは朝から元気に遊びに熱中し、たっぷりお昼寝もした。やっと晩御飯の時間になって、同居人間が「ごはん！」と叫ぶので、そそくさと一応愛想を振りまきに行く。大好きなカニカマ入りの缶詰に舌鼓を打って、満腹にホッと一息。オシッコでもして、もう一寝入りしようとトイレのある猫部屋へ。とその時、猛烈な吐き気が…。せっかく食べたご馳走を全部嘔吐して、グッタリ。とにかくオシッコだ、と思いトイレに入るが、「で、出ない！！」
少し家の中を散歩して、再度トイレへ。グ～っと力を入れてみるが、やっぱり出ない。トイレの中と外を往復すること数回。それを見ていた同居人間が、顔色を変えて右往左往している。なんだかマズイ雰囲気になってきたぞ。

病院は嫌だあ～！

バタバタと家の中を走り回る同居人間。どこかに電話をかけて「お願いします」と言っている。こういう後は、決まってキャリーに押し込められて病院のはず…。今のうちにソーっと逃げ出そうと思った途端に、同居人間の手が体を持ち上げた。「病院は嫌だあ～！」と叫ぶ声も虚しく、あっという間に病院に到着。とりあえずタオルの下にでも隠れるとしよう、「キャリーからは出ないからな！」と訴えたのに、いつもの先生の前に引き出された。断然マズイ雰囲気。

恐怖のカテーテル

同居人間と先生が、何かを話しながら体を触りまくっていたかと思ったら、足を捕まれて横に倒された。来た！カテーテルだ！甦る恐怖にオシッコがチョロリと出てしまった。そのオシッコは、キラキラ・ザラザラとしている。やっぱり砂？不覚にも大声で泣き叫んでしまったが、誰でもあれを経験した人なら分かってくれるはず。完全に詰まってると言いながら、奮闘する先生には申し訳ないけれど、思わず叫びたくなる、「やめてくれ！」。真っ赤なオシッコが吸い出されてくるのを見ると、やっぱりマズイ。あまりに叫びすぎたので、心臓がバクバクしてきた。口を開けて「ハッハッハッ！」と息をしたら、これ以上は無理ですなと、やっと離してくれた。「早く帰ろうぜ」と言うのに、オシッコと血液検査の結果、入院と宣告された。極めつけマズイ雰囲気。

面会

次の日に同居人間が面会に来てくれたけど、笑顔で迎える気分ではない。足には点滴、しかもカテーテルを入れて、オシッコはダダ流れ状態。こんな姿を誰にも見せたくないだろう。枕が変わると眠れないタイプなのに、点滴針にカテーテルそして首にはカラー（同居人間はパラボラアンテナと呼ぶ。冗談じゃない）、眠れるはずもなく、飯を食う気にもなれない。文句の一つも言ってやりたいが、同居人間は一生懸命に機嫌を取ってくれている。アゴをカリカリしてもらって、思わず手の上にアゴを預けてしまった。ほんの少し気が紛れる一瞬だった。真っ赤なオシッコもピンク色になって、腎臓の数値も平均に戻った。「一緒に帰るよ」と言ったのに扉を閉められて、向こう側で同居人間が手を振っている。今夜もマズイ雰囲気。

再度の面会

病院のスタッフが気配りしてくれて、病室の窓にカーテンを付けてくれた。これで少しは落ち着くというものだ。ほんの少しだけリラックスしている時に、再度の面会。同居人間だ。担当医と何やら話しながら、こちらを見ている。同居人間の顔にも笑顔が…。「オシッコの色も薄いピンクになってきたし、神経質な子なので自宅での療養の方がいいかと思います。」やったあ～！退院かあ～？カテーテルを外して、オシッコの出を見てから連絡します。(ガックリ)でも明日は帰るぞ！



久しぶりの日記 🐾

退院から随分の日が過ぎ、快適な日々を過ごしているが未だに病院食の辛い毎日だ。何だか毎日の食事を管理されているのは気に食わないが、同居人間が一生懸命なのに免じて、この病院食で一生頑張っていく事を受け入れることにした。そのかわり、一生私に仕えるのだぞ！！

